

食費は241円で、他の校区を併当方式にすれば400円近くかかる。それを合算してどうような意見も出ていて、PTAでいま協議している。

## 九会幼稚園

**Q** 九会幼稚園の計画で、田原の保育所が地元の要望もあり17年度は存続するということが、本当に幼稚園を考える中で、九会の保育所の建物も古い(48年建)、九会幼稚園も昭和55年建ち、建物建てずに九会の幼稚園構想が進むのか。

**A** 九会幼稚園は、ことし創設した賀茂幼稚園とは違い、入園児数も180名と賀茂幼稚園の2倍、施設も48年築と保育所の中で一番老朽化の進んでいる建物で、賀茂幼稚園のように建物の増改築なしに空き保育所を共用できないのが現状。財政再建の中で多くの改造経費がかげられない状況の中で、保護者の理解もいただきながら環境整備も考えざるを得ないと考える。

## 老朽校舎の建て替えと小規模小学校

**Q** 現在建てかえが必要と言われる小学校3校、宇仁小、西在田小、富田小は、いずれも1学年1クラス。このまま何の対策もなければ、何年か後には100人を切る学校も出てくる。これらの小規模校の将来性をどのように考えているのか。

**A** 少子化や過疎化が進む中、1学年1学級の小規模な学校が増加していることは事実である。学校のみならず、人間らしいふれあいが自然に深まる人数であることが学校が学校として成り立つ基本的な条件と考えられ、世界の国々では小さな学校が大切にされている例もある。そして、小さな学校の意義が問い直されている時代でもあるが、学校の持つ地域的意義も考え、地域に根ざした人間らしさあふれる学校づくりに、小規模校にも将来性はあると考える。財政面からの学校整備については、中期事業実施計画に基づいて



元気に下校する宇仁小学校の児童たち

た整備計画が必要で、現時点では、財政状況が非常に逼迫していることを踏まえ、最低限、昨年度策定した財政再建推進計画に基づく、財政運営を推進せねばならないと考える。災害等を除く学校施設の整備は、投資的経費の単年度8億円という一般財源枠の範囲内で対応する考えで、学校の改築等は、市全体の他の建設事業の中で事業を取りやめたり、後年度に振りかえる等の策を講じて対応しなければならぬと考える。

## 少子化対策

**Q** 少子高齢化が進み、加西市の高齢化率は7月1日現在で21.9%、人口も年々減少し8

月31日現在では5万1241人。中でも、注目をされるのが、出生率が平成15年度に初めて国の平均値を下回ったこと。国は1.29というのが先般も問題になったが、加西市は1.13だった。子どもの減少は、学校教育を初めいろいろなところに影響が出てくる。出生率の低下について、特に国の平均値より低下した現状について所見や対策を聞きたい。

**A** 国の出生率より大きく加西市が下回っているのは、経済的な長引く不況に起因するといえる。加西市の特徴の分析は難しいが、大学進学者のウターンが少ないとか、就職先が少ないこと、女性が仕事に出る機会が増え育児が難しくなってきたり、もう一つは住宅建設の問題が考えられる。出生率も人口減も、その大きな要因の最たるものが、まさに若者が減少して、まちの活力、生産力の減退だと思つ。若者が住みたい、住めるまちであることが一番。加西市はその出生率、高齢化率から見ると特に若者に魅力のあるまちづくりを急務とする必要があると考える。

## 各常任委員会が行政視察を行いました

視察先は各分野の先進自治体で、その成果は今後の議会・委員会活動に活かされます。

### 建設経済常任委員会

日程 7月27日 29日 視察地 (視察内容)

福島県須賀川市 (市街地再開初事業 農産物直売所)・

宮城県仙台市 (下水道の普及促進)・ 名取市 (宅地の開発、鉄道沿線の市街地開発)

(発)

### 厚生常任委員会

日程 7月28日 30日 視察地 (視察内容)

北海道北広島市 (次世代育成支援行動計画)・ 滝川市 (循環型社会形成の推進)・

岩見沢市 (岩見沢市立総合病院の健全経営の取組み)

### 総務常任委員会

日程 8月2日 4日 視察地 (視察内容)

静岡県掛川市 (幼稚園・保育園再編計画)・ 愛知県知

多市 (知多市構造改革の概要)・ 高浜市 (市業務の民間委託)

詳しい視察報告は議会のホームページの新着情報欄でご覧いただけます。